



# 上川井だより

令和3年9月30日  
横浜市立上川井小学校  
校長 山崎 真紀子

## 10月号

### 学びの姿に思うこと

頬をなでる風がさわやかに感じられる頃となりました。校庭の花壇には、キバナコスモスの花が彩を添えています。緊急事態宣言も解除されることになり、10月4日(月)からは通常日課の学習に戻ります。長期にわたり、感染拡大防止の取り組みにご協力いただきありがとうございます。まだコロナ禍が終息したとまでは言えない中、ある程度の活動制限は続くこととなりますが、子どもたちが安心して楽しく過ごせるよう工夫してまいります。ご家庭でも引き続き、毎日の健康観察や体調管理をよろしくお願いいたします。

毎朝、「おはようございます。」と元気に正門をくぐると、3年生は必ず自分の育てているホウセンカの様子を見に行きます。「もうそろそろ実が熟すな。」「種ができているかな。」顔を近づけてみたり、手で触ってみたりしながら生長の様子を詳しく観察しています。「触ってみるとあとどれくらいってわかるんだよ。」と教えてくれる子もいます。

学習の時間が始まり、理科室に行くと、5年生が顕微鏡で水生生物を観察していました。「顕微鏡で見える形は反転しているから、プレパラートの上の方を見たいときは上にずらします。」と、先生の説明を受け、試行錯誤を繰り返しながら観察を行っていました。肉眼ではわからない水生生物の姿を新鮮な気持ちで見っていました。

本校は、2年生を除き、一クラスが20人以下の少人数のため、緊急事態宣言下においても分散せずに毎日登校できたことは幸いでした。2年生もA・Bの2グループに分かれて別々の教室で学習を進めることができました。変わらぬ日常を送ることができるよさを実感した1か月です。

近い将来AI時代が到来し、これまで人が担ってきた仕事の大半をAIが取って代わると言われています。折しもコロナ禍における休校や分散登校の影響で、学びの場にタブレットが導入され、急ピッチで学習のICT化も進んでいるようもうかがえます。毎日登校できたことで、逆にオンライン授業を経験する機会はありませんでしたが、実体験に優る学びはないとも思います。図工の時間に夢中になって釘打ちしたり、板をのこぎりで切ったりする姿。休み時間も鉄棒で前回りや逆上がりの練習をする姿。学年を超えて鬼ごっこに興じる姿。どれも大切な時間です。小学生という人格形成の大切な時期にあたり、自分の目で見て耳で聞き、肌で感じることをまずは大切にしていきたいと考えています。3年生が毎朝ホウセンカを見て実が熟すのを心待ちにするように、まずは自分の目で見て手で触れて実感をするところに学びは生まれると思うからです。タブレットは、5年生が顕微鏡を使ったように、一つのツールとして活用できたらと思います。目では確認できない部分を拡大してみたいとき、実や葉を写真に撮り、拡大して観察することもできます。また、記録したり、履歴をたどったりするには、デジタルのほうが効率的です。4年生は、都道府県の名産・名所についてタブレットや地図帳、資料集、図書資料を活用して調べていました。時には紙の資料で、また別の時にはタブレットを使って、柔軟に知りたい情報を集めていました。

いつもどこでもタブレットではなく、これまでの学習を広げ拡張していくツールとして考えていけたらと思っています。目視では確認できないことを拡張するツールとして、また、効率化やコミュニケーションを円滑にするツールとして、学びを拡張する道具としてタブレットを活用できたらと思っています。